

第2回 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦見学記

小林 佑規

2015年6月5-7日にわたり、第2回会津中央病院杯女流囲碁トーナメント戦が、会津若松・東山温泉で開催されました。める碁会から有志8名が、この棋戦の前夜祭に参加したほか、準々決勝戦の対局開始を観戦する機会を得ました。さらに、対局終了後に行われた大盤解説会を拝聴しました。また、空き時間を利用して、プロ棋士による指導碁を受講しました。ここに、これらの概要をまとめ、記すこととする。

1. 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦

この棋戦は、昨年、第1回が開催され、藤沢里菜二段が優勝している。今年は、第2回が昨年と同様、会津若松で開催された。

優勝賞金は、女流棋戦で最高の700万円である。主催は公益財団法人日本棋院、協賛は一般財団法人温知会である。関西棋院、福島民報、囲碁将棋チャンネル、日本棋院福島県支部連合会が協力している。写真1に、本棋戦のポスターを示す。写真2は、対局会場の東山温泉・原瀧別館「今昔亭」である。



写真1 棋戦のポスター



写真2 対局会場の今昔亭

2. 前夜祭

対局の前日、前夜祭が東山温泉「原瀧」で行われた。ここには、予選を勝ち抜いた棋士6名（桑原陽子六段、加藤啓子六段、鈴木歩六段、石井茜二段、王景怡二段、金子真季初段）とシード棋士2名（藤沢里菜二冠・会津中央病院杯、女流本因坊、謝依旻二冠・女流名人、女流棋聖）が、着物姿で壇上に登場した。

大会関係者の挨拶など、通常の儀式が行われた後、準決勝戦トーナメントの抽選が行われた。抽選は、シード棋士、予選勝ち抜き上位者の順に行われた。写真3は、抽選が終了し、対局者同士が握手している様子である。写りはにこやかな笑顔であるが、すでに、戦いは始まっているであろうか。それぞれの棋士による挨拶が行われたが、金子初段は、去年は記録係として来ていたそうである。



写真3 抽選後対局者同士が握手している写真

また、大盤解説の片岡聡九段、聞き手の青葉かおり四段をはじめ、記録係、指導碁の担当棋士の紹介と挨拶があった。写真4は、左から4名が記録係（宮本千春初段、星合志保初段、風間隼二段、安達利昌三段）、青葉かおり四段（棋戦プロデューサー）、片岡聡九段、指導碁担当の3名（尾越一郎八段、宮崎龍太郎七段、兆乾二段）である。



写真4 大会を支える棋士

写真5は、前夜祭における青葉先生を囲んでのめる碁会参加者である。（写真撮影は、片岡さん）



写真5 める碁会のテーブルNo.6

3. 対局開始の観戦

対局場は、東山温泉・今昔亭で行われた。対局は、中小野田智己日本棋院常務理事の合図で、4局同時に開始された。この対局開始では、印象に残る事象があった。まずは、開始の合図が、10:00:00 ジャストに発せられたこと。次いで、「序列上位者が握って下さい」との言葉が添えられた。序列上位者が握るとわざわざ宣言されたのには、勝負の世界に生きる序列の厳しさが感じられた。

対局は、写真6に示すように、テーブルに椅子で、それぞれに記録係がいる。幽玄の間生中継用のパソコンも置いてあった。開始までの棋士は、目をつむって瞑想している人、お茶を飲んでいる人、それぞれでしたが、開始4分前に席に着く大物もいた。

観戦は、開始10分前から、対局10分間に限定された。写真撮影は、フラッシュを用いないことを条件に、許可された。



写真6 対局開始時の様子

4. 大盤解説会

大盤解説は、今昔亭のロビーで行われた。解説者は片岡聡九段、聞き手は青葉かおり四段である。

準々決勝では、加藤啓子六段、王景怡二段、謝依旻六段、藤沢里菜二段が勝ち上がった。これら4局について、それぞれ、両対局者が並べる形で、ポイント解説が行われた。勝者はいいいとしても、敗者が観客の前で対局を振り返るのは酷に見えたが、これが勝負の世界



写真7 対局直後の大盤解説

界に生きるプロなのかと思った。

なお、次の日に行われた準決勝戦では、謝依旻六段と王景怡二段が勝ち上がり、両者で決勝戦が行われる。ちなみに、決勝戦は、7月2、3日の両日にわたる二日制で「今昔亭」にて実施される予定である。

写真8は、大盤解説会場の今昔亭ロビーにおいて、解説者の片岡九段とめる碁会の参加者とのスナップである。

(左から、小林佑規、塩沢美義、吉田茂、西平哲男、片岡義夫、中島正市、橋野武、前列左から立花芳子、片岡聡九段)



写真8 大盤解説者の片岡聡九段とめる碁会参加者

5. 指導碁

準々決勝の対局中、参加者全員に指導碁受講の機会が与えられた。会場は、東山温泉「原瀧」、指導碁の時間はほぼ1時間半である。前夜祭で紹介された棋士3人に加え、中小野田常務理事、青葉四段も指導対局をしていた。いずれも4面打ちである。

写真9は、尾越八段の指導を受ける塩沢および西平める碁会員である。



写真9 指導碁の様子

6. 終わりに

める碁会顧問である青葉かおり四段は、日本棋院において、本棋戦の企画プロデュースを担当している。本棋戦の詳細を紹介していただくとともに、見学・観戦にあたっては多大な尽力を賜った。ここに記して、参加者一同御礼申し上げる次第です。